

第2回 吹田市立千里山竹園児童センター指定管理者候補者選定委員会
議事要旨

1 開催日時

令和6年(2024年)9月4日(水)午後3時から午後7時まで

2 開催場所

吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

3 会議次第

(1) 開会

(2) 指定管理者の選定方法

(3) 案件

ア 書類審査及びプレゼンテーション審査

イ 答申

(4) その他

4 出席委員

(1) 宮里 慶子 千里金蘭大学 教育学部 教育学科 准教授

(学識経験者)

(2) 曾我 雅俊 大和大学 教育学部長

(学識経験者)

(3) 瀬戸 展子 吹田市PTA協議会 書記

(市内の公共的団体等の代表者)

(4) 梅村 賢作 吹田市青少年対策委員会連絡協議会 会長

(市内の公共的団体等の代表者)

(5) 有吉 寛展 近畿税理士会吹田支部 税理士

(公認会計士、税理士その他会計に関し専門的知識又は経験を有する者)

5 配付資料

- ・吹田市立千里山竹園児童センター指定管理者候補者選定委員会(第2回)次第
- ・資料1 指定管理者の選定方法
- ・資料2 吹田市立千里山竹園児童センター指定管理者選定基準における評価項目及び配点表
- ・資料3 吹田市立千里山竹園児童センター指定管理者候補者選定委員会(第2回)タイムスケジュール
- ・資料4 吹田市立千里山竹園児童センター指定管理者候補者選定 評価表

6 議事の概要

(1) 開会

<選定委員会の出席状況確認>

<配付資料の確認>

(2) 指定管理者の選定方法

<事務局から資料1から資料4に基づき、指定管理者の選定方法について説明>

(3) 案件 ア 書類審査及びプレゼンテーション審査

委員長 本日審査を行う応募者AからEの応募書類について、安定的財政基盤及び収支計画に関わる
ところで、委員に応募者の財務状況についてお伺いしたいと思います。

委員 <応募者の財務状況について意見>

委員長 ありがとうございます。

それでは、続いて、プレゼンテーション審査をはじめたいと思いますので、委員の皆様よろ
しくお願いいたします。

<応募者Aプレゼンテーション>

<応募者A質疑応答>

委員 魅力的なプログラムがたくさんあり、それらの必要経費について記載がありますが、利用者
からの参加費の徴収に関しては、基本的にどのように考えていますか。

応募者 子供向けのプログラムということもあり、できれば無償でできるような形で実施してい
きたいと考えています。材料費に関しては一部いただくものも出てくるかもしれませんが、収支
計画書の事業費として、年間60万円見込んでおり、その事業費を充てて実施していくことが
基本的な考え方になっています。子供向けプログラムの中で、参加費を払える払えないで、
参加の差が出てくるのが考えられるため、できるだけ参加しやすい形での実施を考えてい
ます。

委員 年間行事計画と月間行事計画はどう違うのでしょうか。

応募者 基本的に年間行事の方は、単発で実施する大きめのプログラム・イベントであり、月間行事
は子供たちが月に何回か参加してもらえるプログラムを実施するイメージで考えています。

委員 オープンチャットの利用について、セキュリティの面などから、近付きがたい、使いにくい
というイメージがおそらく保護者の中であると考えられます。オープンチャットは情報共有
だけに使うのか、相互の連絡に使うのか、オープンチャットをどのように運用して、コミュ
ニティ形成にあたり、地域発展につなげていこうと考えていますか。

応募者 児童センターで実施するプログラムの発信に加え、例えば、地域でのイベントの情報共有な
ど、基本的にはみんなが参加できるプログラムを知るツールとして使用していきたいと考
えています。我々が管理主体となり、公的なイベント、地域の方が取り組まれている参加
できるイベントなどを地域で情報共有できる場として始めていきたいと考えています。

委員 セキュリティ面に関して保護者は敏感だと思うので気を付けていただきたいと思います。

応募者 オープンチャットは匿名で参加できる場所もありますので、実際の運用では細かいルール
も含めて決めていくべきものと考えています。

委員 児童センターの管理運営の基本方針に「世界に出会える場」とありますが、「世界」とは何の
ことでしょうか。

応募者 子供たちが、今、見えているもの、参加しているものが、基本的に自分たちの見えている世
界だと考えています。そこで、児童センターで新しい事業への参加、新しい体験など、実際

に参加者が主体になることで、今まで見えていなかったもの、知らなかったテーマについて知ることで、また違った見方、違った世界ができるのではないかと、「世界」という言葉を使わせてもらっています。

委員 未知の世界とか未知の見方ということですね。

応募者 そういう認識です。例えば、体を動かすことが好きな子もいれば、絵を書くなど静かな動きが好きな子もいるので、いろんな子供が参加できるようなプログラムを幅広くやっていきたいというところで、そのような書き方をさせていただきました。

委員 子供会議について、各応募者が中学生をどう巻き込むか違いがある点で、御社の場合は、中学生が子供会議の中心ではなく、小学生の高学年が中心になっているように見受けられますが、中学生の運営への巻き込み方、参加の仕方はどのように考えていますか。

応募者 現状、施設の利用者は小学生が多く、その小学生たちが基本的に継続的に利用していただき、その中で中学生がどう関わってくるかというところで、すでに利用されている方、これから新しく施設に来る子供たちにも、「企画会議に参加してみないか。」「施設の運営に加わってみないか。」などの声掛けの必要があると考えています。

中学生になったから施設に来ないとはならないように、施設に来るような習慣付けをしていく。これから指定管理期間は5年間ではありますが、10年15年を見据えた中で、これから中学生、今後どうなるかわかりませんが高校生になっても施設に来るような流れができれば良いと考えており、今回は小学生をターゲットにして記載しました。

委員 小学生が育っていったって、中学生がリーダーになるような想定ですね。

応募者 そうです。中学生が実際に運営に入ってきて、小学生に対して教えてあげたり、講師になることもあるだろうし、小学生に対しての講座のボランティアをすとか、実際自分たちが参加することもあると思いますので、最初はその土壌作りが重要と考えています。

実際、我々が運営する児童センターの中でも、中学生とか高校生とかがたくさん来てくれるような施設もありますが、千里山竹園児童センターに関しては、割とスペースが狭目というところもありますので、最初、中学生をすごく巻き込んでいこうとしても、あんまり上手くいかないと考えている部分もあります。

その中で中学生の場所を設定してあげて、講座や子供会議などいろんなものでまずは参加してもらうところからやり始めていこうと考えています。

なかなか最初から中学生をものすごく想定したというよりは、その土壌を作っていくところどころにどちらかというところ、焦点を当てているところですね。

当然、講座とかでメイクの講座、花火づくり、天体観望会などは他の施設の中学生世代が来てくれていますので、そういうものをやりながら、距離を近づけていきたいと考えています。

<応募者Aの評価>

<応募者Bプレゼンテーション>

<応募者B質疑応答>

委員 現在の館長並びに主任児童厚生、児童厚生員、事務員の雇用を全員継続するとありますが、なぜそのようにするのでしょうか。

応募者 馴染みの環境、馴染みの信頼関係、そこに力を置きました。馴染みの信頼関係のもとに、子

供たち、または保護者は、安全、安心して、「あそこだったら大丈夫だ」と思って参加していただけるような環境づくりということを考えました。

委員 例えば新しい人材を登用して、今までのやり方を見直して新しい運営の仕方は検討されていますか。

応募者 少し保守的かもしれませんが、1年目は安定して繋げていき、その中で課題を解決していくと考えています。具体的には、子供会議又は子供の意見箱に準ずるようなものを活用して、その声を受けて、新しい課題に挑戦していきたいと考えております。

委員 当面は現状の継続維持というのがあって、いろいろ意見等を汲み上げたところでまた考えるということではよろしいですか。

応募者 はい。ただし、令和7年度から新しい課題として中学生の受け入れがありますので、その点は来年4月から取り組んでいくという決意です。

委員 乳幼児、小学生、中学生のゾーニングは特に考えていないという記載がありますけれども。結構危ないところもあるのではないかなと思います。その辺の対応・工夫はどういう想定をされているのでしょうか。

応募者 1階の遊戯室がありますが、パーテーションで静かに活動する場と動きのある活動をする場の二つに分けております。

現在、千里山竹園児童センターでは、他の児童館と違いまして、乳幼児の部屋を設けていません。現地の方々に、そのことによって、過去に大きな課題が上がってこなかったと伺いました。

乳幼児はお母さんたちと一緒にいることが基本になっておりますが、例えば、乳幼児のお姉さん、お兄さんが、同じ部屋で宿題をしたり、同じ場所で過ごしたいという意向にも応えることができしております。きょうだい関係を大事にし、家族と一緒に参加することができる、児童センターの理念に沿うものだと考えております。

場所的には配分を考え、2階に学習室、図書室があり、学習室は子供たちが宿題や将棋やオセロを行う場所、図書室は本を読む場所、子供たちやご家庭のニーズに対応していく中で、安全安心に取り組みながら共に生き、共に成長していく環境になっているのではないかと思います。他の児童館と比べてその違いが千里山竹園児童センターの特色になっています。子供たちは乳幼児の親がいる場所で遊ぶということよりも、自分で遊び場を見つけ、その場所に動いている。具体的には、静かに過ごすことが必要な子供たちは、遊戯室の静かな場で遊び過ごします。そこに元気な遊びをしたい子供が行くということはないと聞いております。千里山竹園児童センターの1階の遊戯室のひと部屋では静かに遊び、もう一つの部屋では元気に遊ぶ。2階の集会室では遊具やおもちゃを使って遊ぶ。学習室は将棋やオセロ、勉強をする。図書室では本を読む。自分の遊びや過ごし方に応じて、自ら選んで、そこで成長してくというような活動スタイルが定着しております。

実際にこのスタイルが千里山竹園児童センターの15年間で作ってきたものですが、これを変えていかなくてはニーズに応えることができないと判断した場合は、改善に取り組んでいきたいと思っています。

委員 様式第6号の収支計画書の交際費とありますが、具体的にどのようなものでしょうか。

応募者 基本的に謝礼金になります。

<応募者Bの評価>

<応募者Cプレゼンテーション>

<応募者C質疑応答>

委員 育児コンシェルジュによる子育て相談会の実施とありますが、御社独自の資格である育児コンシェルジュということですが、保活の相談に乗ると、特定の園に繋げるなど、平等性に欠けるようなことが危惧されますが、この辺りはどんな想定をされていますか。

応募者 育児コンシェルジュは資格ではなくて、子育ての相談にのるようなコンシェルジュサービスになっております。その中の保活相談というのは、特定の保育園を充てるということではなくて保活のやり方であったりとか、そのポイントの付け方であったりとか、保活をする前情報を提供するような形になります。

委員 育児コンシェルジュというのはどういう方が従事されていますか。

応募者 今この事業に従事するメンバーにつきましては、もともと保育士をしていたメンバーや幼稚園資格を持ちながら、今現役で子育てが終わったメンバーなど何らかの子育て支援に携わったことのあるメンバーが従事しております。

委員 事業計画書の危機管理体制の図において、何かあった時に業務従事者が対象児童の対応をされて、その後、エリアマネージャーが吹田市や保護者へ連絡をする記載となっており、館長が特に何もしていない感じに記載されています。このエリアマネージャーはどのような者で、館長との違いは何でしょうか。

応募者 エリアマネージャーと館長の違いは、館長は基本的に施設を見ている、施設運営の管理者が館長になります。エリアマネージャーは館長と吹田市のパイプ役であり、何かあったときには、まずエリアマネージャーに相談をして、そこから吹田市に報告を行うという形になりますので、館長から直接吹田市ではなくて、間に本部社員が入ることで、柔軟に対応ができるように体制を整えております。

委員 中学生の自主活動について、中学生の声を拾いながら実施することが想定されていますが、中学生独自のニーズとか環境整備の点が気になり、中学生のニーズの拾い方や予算計画はどのような形で想定されているのでしょうか。

応募者 現在、中学生が千里山竹園児童センターにはいらっしやらないというところで、過去に私が担当しておりました児童館に類似した場所かというと、中学生のニーズは日々変わっていますが、今の時代だとSNSやインターネットを通じてゲームをやりたいとか、ネットで調べ物をしたいなどのニーズがたくさんあります。ただし、それだけではなく、実は本を読みたかったという声もあるかもしれないというところで、来てくださった子供たちにもどんなことをやってみたいか積極的に職員が声をかけるなど、関係性構築をまずはやっていきたいと思っています。

今、ほとんどの中学生はスマホを持っており、アンケートや施設のインスタグラムに書き込まれている声を拾い、随時、その声を反映させていけるようなことを考えております。予算では、今何ができることがわからないところではありますが、小学生向けで組んでいる予算等で調整していきたいと思っておりますが、まずは声を拾うというための関係性づくりということが一番を考えております。

委員 収支計画書の支出の部におけるアルバイト賃金が計上されていますが、御社におかれましては、非常勤のアルバイトの活用は考えていらっしやいますか。

応募者 常勤職員及び非常勤のどちらも募集をしようと考えており、収支計画書の作成の際には今、

実施している収支予算書を見ながらそこまで大きなずれがないようにアルバイト賃金についても予算感を見ながら作成しました。

<応募者Cの評価>

<応募者Dプレゼンテーション>

<応募者D質疑応答>

委員 遊戯室の開放時間について、平日は15時から17時まで、土日、長期学校休業日は10時から12時までと記載がありますが、この開放時間以外は使用できないのでしょうか。

応募者 あくまでも区切った形でそこに職員を1人置いてというふうに考えており、現状どうやって使用されているかももう一回確認しますが、基本的にはこの対応時間を設定して、その時間は自由に入るようにはなりませんけれども、遊戯室での自主的な活動ができる時間帯を区切っているということで、企画をさせていただきました。

委員 ということは、記載の時間帯以外に遊戯室は使用できるということですか。

応募者 はい。

委員 中学生の対応ですが、中学生ボランティア活動の拡大について記載がありますが、一方、子供会議の対象に中学生は含まれているのか。また、子供たちのリーダー育成についてどのように考えていますでしょうか。

応募者 中学生の利用を促していきたいという考えがありますので、子供会議の対象に中学を入れたいと思っていますが、一緒の場で話すのが良いのか、それともある程度年齢を区切った方が良いのか、子供会議を開催しながら見ていきたいと考えています。子供たちが積極的に発信できる形を考えていきたいと考えています。

補足しますと、私ども大前提は「主体的に自分らしく生きていける子供」、これを育てたい。選択肢を自分で決められる、主体性を育むための様々な企画をしたいと思っています。

委員 小学生と中学生が混在すると、力関係では、どうしても中学生が上になるので、小学生がなかなか意見が言えないといった危惧もあるので、その辺のバランスとか、ボランティアなのか、リーダーなのか、その辺りの設定が少しわかりにくかったので質問させていただきました。

<応募者Dの評価>

<応募者Eプレゼンテーション>

<応募者E質疑応答>

委員 自主学習の場の提供における、大学生のボランティアによる自習室の見守りについて、これは自習している子供たちの監督ということでしょうか。

応募者 はい。

委員 必要な人数を集められるという目処はありますか。

応募者 はい。今、運営中の児童センターでは多くの大学生のボランティアに来てもらっておりまして、大学からの距離も離れていませんので、その学生たちが行ってくれるかと考えております。また、子供と関わる場を求めている学生も多いので、声を掛ければやってくれると見込んでおります。

委員 幼児教室について、気軽に利用しやすいように申込み不要でというお話がありました。ま

た、登録もしないともあり、いろんな親がいるので、登録もしないというのは、危機管理的にどうなのかと思いますが、そのあたりのお考えをお聞かせください。

応募者 児童センターの利用の登録はしていただこうと思いますが、幼児教室への参加の登録はしなくても大丈夫というふうにしたいと思っています。住所など最低限の情報は、児童センターの利用登録のところで把握をさせていただきたいと思っております。

委員 自主事業計画について、託児付きのものがありますが、外部の方をお招きしてその方と一緒に託児をしてくださる方が来てくださるのか、児童センターの職員が託児をするのか。

応募者 私どもの保育士資格を持っている職員等が託児をする前提で考えておりますので、お子さんと時々児童センターに遊びに来てくれているならば、知っている職員が見ることができ、安心感がある方がいいのかなと考え、そのように計画しております。

委員 そうなると、そこに児童センターの職員の方が取られてしまうので、手薄になるところは他の職員が埋めていただくという感じでしょうか。

応募者 通常の児童センターの運営外で人を置くイメージで考えております。

委員 子供会議について、当面は小学生、高学年中心ということで、定期的開催と書いていますが、具体的にどれぐらいの頻度で、どのように運営される想定でしょうか。

応募者 今、運営中の児童センターでも子供会議を運営しており、毎週開催しております。最初は、メンバーを固定しようと思いましたが、それだとうまくいなくて、現状は、この日に子供会議をやることを継続してアピールしています。その日に来てくれた小学生に呼びかけて、大体、四、五人が来てくれて、例えば、今であれば「児童センターまつりのボトルキャップの絵を書くんだけど、何名にするか、来週までに決めましょう。」というお題を出して、それについて子供たちが決めてくれて、子供会議でこう決まりましたというのを貼り出して、また来週これ話すから来てね、そんなイメージで毎週運営しています。

委員 毎週の実施で結構頻度は高いイメージということですね。

応募者 はい。子供が定期的に児童センターに来る一つのきっかけになっていると考えています。

委員 保護者からの相談体制について、関係機関と連携をとるという記載がある一方で、法人内の看護師により対応するという文言が記載されていますが、通常、保健師や地域の関係機関との連携は重要と考えており、先ほどは大学との連携の話もありましたけども、地域との連携について具体的に確認させてください。

応募者 私たちは身近な一次の相談窓口だと思っており、そこで把握したことを、どういう地域の関係機関と連携したら良いのか判断し、しっかり連携を図っていきたいと思っております。一つの私たちの持っている財産として、法人内に看護師もいますので、簡単なことであればその日に居れば聞いてみるなど、法人内の人材も使えるのかなということで、記載しましたが、基本は地域の皆様方としっかりと連携をする一次相談窓口という認識で進めていきたいと考えています。

<応募者Eの評価>

<評価点の確認及び最終調整>

<事務局集計作業>

<指定管理者候補者選定 評価結果総括表及び評価点集計表を配付>

委員長 それでは、審査結果について、事務局から報告を受けます。

事務局 机上に配付しました、「指定管理者候補者選定 評価結果総括表」とその内訳となる「評価点集計表」をご確認ください。

1位と評価した委員の数が1番多い応募者Aが指定管理者候補者という結果になりました。次に、応募者Cと応募者Eは1位と評価した委員の数が同数ですが、2位と評価した委員の数が多い応募者Eが次点者という結果になりました。

委員長 ありがとうございます。それでは委員の皆様、1位と評価した委員の数が1番多かった応募者Aを、指定管理候補者とします。次に、1位と評価した委員の数が2番目に多かったのは応募者Cと応募者Eですが、2位の数が多い応募者Eを、次点者とします。よろしいでしょうか。

全委員 異議なし

(3) 案件 イ 答申

<委員長が児童部長に答申書を手交>

(4) その他

委員長 それでは、次第の4、その他としまして、事務局からお願いします。

事務局 各委員におかれましては、今回の選定にご協力いただき、ありがとうございました。

今後のスケジュールは、選定結果につきまして、応募者に速やかに書面で通知するとともに、吹田市のホームページに、選定委員の名簿と議事録を含む選定の経過概要及び審査項目、配点、選定結果を掲載いたします。

委員長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、選定委員会を閉会いたします。